

# 小学校における英語活動の指導の在り方 －高学年におけるプロジェクト型英語活動について－

## 要 旨

高学年の児童に積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るには、どのような英語活動が効果的であるのかについて考察した。

キーワード： 高学年の児童、コミュニケーションへの積極的な態度、プロジェクト型の英語活動

### 1 はじめに

平成20年3月に小学校学習指導要領が告示され、小学校に「外国語活動」が導入された。平成21年度と平成22年度が移行期間であり、平成23年度から完全実施となる。いよいよ全国のすべての小学校で外国語活動が実施されることになる。

小学校における外国語活動（英語活動、外国語会話等）は、平成10年12月の学習指導要領の改訂に伴い、「総合的な学習の時間」において国際理解に関する学習の一環として取り入れることが可能となり、全国の多くの小学校で英語活動の取組が始まった。文部科学省が実施した平成19年度の「小学校英語活動実施状況調査」では、全国で97.1%の小学校が英語活動に取り組んでいる。

昨年度の指定研究事業プロジェクト研究では、本県が平成16年度から18年度まで取り組んだ小学校低学年における「早期英語教育」の成果と課題を踏まえた、中学年及び高学年における効果的な指導の在り方について研究し、プロジェクト型の英語活動に取り組んだ。

今年度は、このプロジェクト研究は昨年度からの継続研究（2年間）となっている。しかし、指定研究員が昨年度の中学年担任2名、高学年担任2名の計4名から、今年度は高学年担任2名になったことから、昨年度の成果と課題を踏まえつつ、高学年におけるプロジェクト型の英語活動の効果的な指導の在り方について研究した。

### 2 小学校学習指導要領の外国語活動の目標

平成20年3月に告示された小学校学習指導要領に、外国語活動の目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」とある。つまり、外国語活動の主なねらいは、外国語のスキルの向上ではなく、体験的活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることである。

英語活動で、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成するには、「児童が思わず、相手が話す英語を聞いてみたくなる、そして、自分の思いを何とかして相手に英語で伝えたくなるような活動が必要になってくる。」と直山木綿子氏は述べている。

そのような活動を作り出すためには、児童が何に興味・関心をもち、どのようなことをしてみたいと思っているかを知ることが必要である。また、相手に外国語で伝えたいと思うに値す

る内容が必要になる。

### 3 中学年から高学年における英語活動の課題

低学年児童には、英語活動を楽しく感じ、ALTの質問に物怖じせず答えたり、積極的にALTに話そうとする態度が見られる。しかし、そういったコミュニケーションへの積極的な態度は、年齢が上がるにつれ、薄れていくことが報告されている。その原因として次のようなことが考えられる。

#### (1) 発達段階に起因するもの（9歳の壁）

8歳と9歳の間に発達上のボーダーラインがあり、心理的な転換期があると言われている。個人差はあるが、小学校3年生ごろまでは無邪気で、繰り返し練習すること等に抵抗がなかった児童が、小学校4年生ごろから無邪気さがなくなったり、単調な作業に抵抗を示したり、理屈っぽくなったりする。また、この頃の児童は、歌やリズム遊びの活動に対して恥ずかしさや照れを感じたり、新しい発見、知的好奇心への刺激、活動する目的などを求めるようになるという報告もある。

#### (2) 英語活動の内容に起因するもの

あらかじめ授業内容が定められ、児童はこれに従って学習していく英語活動（この種の活動をプログラム型と呼ぶことにする。）が小学校低学年から多く行われている。このプログラム型は、教師主導であるため、活動の流れをパターン化しやすく、教師にとって負担が少ないと同時に、活動を英語で行うことが容易である。しかし、各時間の活動内容につながりがなく、記憶に残りにくいことや、活動が歌やゲームなどに偏りがちになる。低学年からプログラム型で英語活動を行っている児童にとっては、活動に対して「新鮮さ」がなくなり、「物足りなさ」を感じるようになる。

英語活動が進んでいくにしたがって、歌や遊びだけでは不十分であり、児童の発達段階及び学習段階に応じた指導を考えることが重要である。

### 4 中・高学年における英語活動の在り方

「中学年から高学年における英語活動の課題」で述べた課題を解決するためには、次のようなことを考慮する必要があると考える。

- ・児童の創造性や課題解決能力を育成するための目標や課題解決型の活動を設定する。
- ・自己決定をしたり、物事を判断したり、他者とのコミュニケーションを通して自分の考えを伝える場を設定する。
- ・単に英語を話すことを目的とするのではなく、児童が興味のある知識や情報を得ようとする際に、必然性を感じながら英語を使うことができるような学習とする。
- ・児童にとって新たに得られる情報に興味・関心がもてる内容、知的好奇心が刺激されるような内容を取り上げる。
- ・児童の認知的発達や思考の流れ、単元の連続性や発展性などを考慮する。

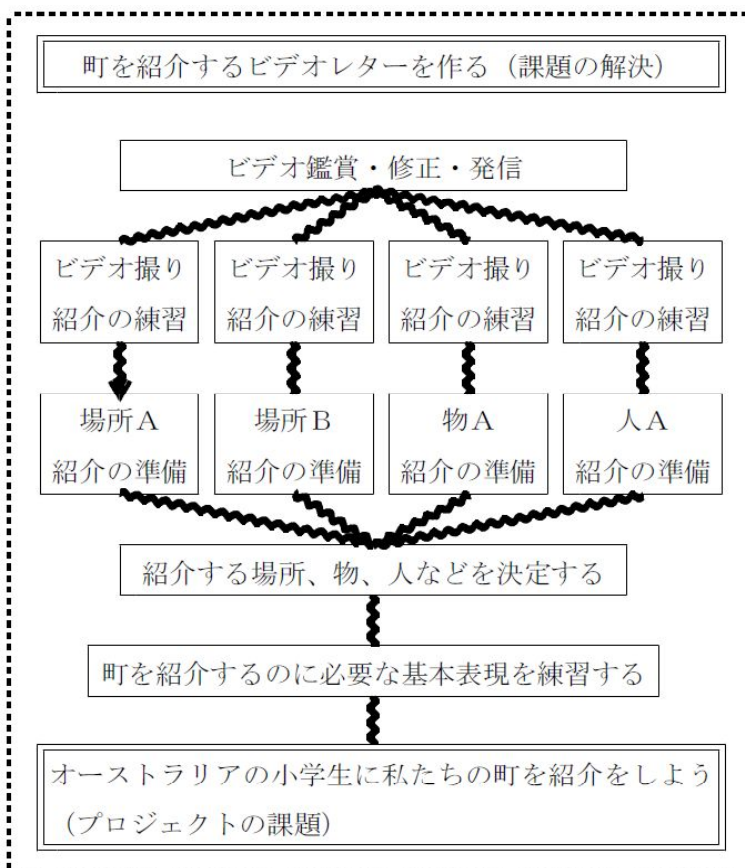
そこで、上記の5つの要素を英語活動に組み入れるためには、「プロジェクト型」の英語活動を今までの英語活動に取り入れることが課題の解決に有効であると考えた。

「プロジェクト型」の英語活動とは、「活動に課題を設定し、数時間をまとめ取りしてグループなどで主体性・自主性を最大限尊重しながら、創造的な活動をさせるものである。」と東野裕

子氏と高島英幸氏は説明している。「プロジェクト型」の英語活動では、活動に課題を設定し、個人、ペア、グループなどで英語を用い課題を解決していく。そして、課題の解決として、英語を使った発表、会話などを行う。東野裕子氏、高島英幸氏は「プロジェクト型」の英語活動を、絵本を題材とした「絵本型」プロジェクト、紹介・案内を題材とした「発展・発信型」プロジェクト、買い物などを題材とした「相互交流型」プロジェクトに分けている。

「プロジェクト型」の英語活動の流れをわかりやすくするため、一例を挙げる。

右の図は「発展・発信型」プロジェクトの例である。このプロジェクトの課題を、「オーストラリアの小学生に私たちの町を紹介をしよう」とし、その課題解決のために「町を紹介するビデオレターを作る」と決めたとする。まず第1段階として、町を紹介をする際に使う英語表現を学び、練習する。次の段階として、紹介する場所、物、人などを決定する。そして、第3段階としてグループごとに紹介したい場所、物、人に必要な表現を工夫、練習し、第4段階として、それぞれのグループごとの紹介をビデオで撮る。最終段階はグループごとで撮影したビデオを1つにまとめ、みんなで観賞し意見を出し合い、修正し、完成したビデオレターを発信する。



このような課題解決までの過程において、児童は自由に課題解決のための手段を選択・決定したり、趣向を凝らすなどの、主体的・創造的な活動を行うことができる。

本研究では、「プロジェクト型」の英語活動を取り入れることで、英語を覚えることを目的とした学習にせず、英語を人間関係を結ぶための言葉の1つとしてとらえ、コミュニケーション能力の向上のための英語活動とするような活動を目指した。

## 5 小学校における英語活動と国語科学習との関連

平成15年3月に、文部科学省から『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』が示され、英語の授業改善の目標として、「英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る」ことが挙げられた。また、英語の習得は母語である国語の能力が大きくかわるものであり、英語によるコミュニケーション能力育成のためには、その基礎として、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高めることが必要であるとして、「英語によるコミュニケーション能力の育成のため、すべての知的活動の基盤となる国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成する」ということも目標の1つとされた。

平成20年3月に告示された、「小学校学習指導要領」でも、小学校における「外国語活動」の目標について、「コミュニケーション能力の素地を養うこと」、「外国語を用いて、積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」と示された。

小学校段階で英語活動を進めることに対して、「英語活動を始める前にまずなすべきことは、母語できっちりと考え、読み書きをし、コミュニケーションをする能力であり、そのための技術の指導が優先されるべきである。」と三森ゆりか氏が指摘しているとおりに、国語科学習の中で伝え合う力を高める取組の充実を図っていくことは大切である。

それとともに、英語活動においては、

- ・音声を中心とする。
- ・児童にとって身近な事柄を扱う。
- ・児童が「言いたくなること」「したくなること」を題材として扱う。
- ・既知のものでも、活動の中で新たな発見をもたらす話題等を扱う。
- ・外国人の表現や身振りの中から、文化の違いに気付かせる。

等に配慮した内容で、児童が英語に興味・関心をもち、英語を使う必要性が感じられる活動を通して、より確かなコミュニケーション能力の育成を図ることは大切である。

つまり、英語活動と国語科の学習を関連させ、様々な言語文化に触れる中から感性や情緒をはぐくみ、互いの立場や考えを尊重していく姿勢、言葉を通して適切に表現したり理解したりして積極的に人間関係を結ぶことができる力を育成することが、今、求められている。

## 6 昨年度の成果と課題

小学校の英語活動においては、言語習得を重視せず、児童のコミュニケーション能力の土台作りをすることが重要であり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が望まれている。小学校の英語活動は主に担任とALT等とのチームティーチング形式で行い、児童に歌やゲームなどを通して英語表現に慣れ親しませることにより、英語に対する興味を持続させることが重要である。しかし、学年が進むにつれ、英語活動に対する意欲が減少してくる傾向がある。そのため、より意欲的に英語活動に取り組みせ、英語を使うという目的意識を高めるために、今回の研究では、プロジェクト型の英語活動を取り入れた。

プロジェクト型の英語活動の指導にあたって、まず、コミュニケーション能力を伸ばす等の目標を達成するように指導計画を立てた。例えば、数時間で1つの単元を組み、最後の活動において自己表現ができるように、様々な場面でのやりとりに必要な英語表現を繰り返し練習させ、身に付けさせた。単元の最後には、今までに習得した英語表現を使用することによって自分が相手に伝えたいことを表現させるなど、まとめの活動を行わせた。すべての事例において、児童は、友達と楽しくコミュニケーションを図り、目的意識をもって活動し、自主的に練習に取り組んだ。このプロジェクト型の英語活動の指導を行うことによって、どの学年の児童にも英語に対する興味をもたせ、意欲を失わず積極的に活動させることができたと思われる。また、伝えたいことを伝えることができたという達成感も味わわせることができたと思われる。

しかし、課題としては、指導計画を立てたり教材を作成したりすることに多くの時間を費やすことが挙げられる。また、限られた時間の中でいかに多くの英語にふれさせ使用させることができるかを考えることや、多くの教師が指導のポイントを押さえ、児童に明確な助言をすることも求められる。プロジェクト型の英語活動の指導を円滑に行うために、教師は、いくつか

のプログラム型の英語活動を通して学んだ表現や言葉が活かせるようなプロジェクト型の英語活動を、計画的に設定するなど、年間計画を立てる際に工夫することが重要である。

## 7 今年度のプロジェクト型の英語活動について

6で述べた昨年度の成果と課題を踏まえるとともに、今年度の指定研究員の勤務校の実態に応じて、今年度は次の点に留意し、プロジェクト型英語活動の計画を立て、実施した。

- ・外国語のスキルを身につけるのではなく、体験的活動を通して、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ・児童の興味・関心を知り、それに応じたプロジェクト型の英語活動を行う。
- ・プロジェクト型の英語活動をまず設定し、その活動で活用できる表現や活動を含むプログラム型の英語活動をプロジェクト型の活動の前に行う。
- ・ALTとのチームティーチングを前提としないプロジェクト型の英語活動の在り方についても考える。

次の8-1と8-2は6年を対象にしたプロジェクト型の英語活動の事例である。4で述べたプロジェクト型の種類でいうと、事例8-1と8-2とも、「発展・発信型」プロジェクトである。

## 8 事例

### 8-1 事例(1)

## 英語活動指導案

2008年11月28日 金曜日

第5校時

6年2組31名(男18名 女13名)

使用教室 英語科教室

指導者 岸 直美

Nicholas Hogg

- (1) **単元名** 留学生に日本の遊びを紹介しよう
- (2) **単元のねらい** 日本の遊びについて、簡単な英語を使って留学生に積極的に伝えようとする。
- (3) **単元について**

斑鳩町では、小中連携教育の一つとして英語活動を行っている。中学校の英語教師をコーディネーターとして英会話部会をもち、英語活動指導案を作成している。本年度は、4～6年生では、年10時間ALTと英語活動を行い、5・6年生では、担任のみの英語活動をさらに5時間設定し、年間15時間行うことにしている。

本学級の児童は一人一人とても個性的で、楽しいこと、面白いことには積極的に取り組み、盛り上がりを見せるが、次の指示への対応や、次の活動への切りかえが遅いこともあり、「はじめ」をつけて活動に取り組めるような指導が必要である。



英語活動においては、本学年は、1～3年生時に年4回程度、4年生時に10回、5年生時には10回の英語活動を行ってきた。また、本学級では朝の会や帰りの会のあいさつ、授業の始めと終わりの号令を英語で行ったり、他教科においても英単語や簡単なフレーズを使ったりすることで、英語への意識付けを心がけている。そのためか、英語活動では、興味をもって取り組もうとする児童が多く、担任やALTのあとについてレポートをしたり、曲が流れたら自発的に歌ったりするなど、自然に取り組めることも多い。ただ、英語活動に興味はあるが、「英語を言うときに間違ったら恥ずかしい。」と積極的に発言できない児童もおり、適切な声かけや指導が必要であると感じている。

6年生では、留学生や地元で生活する外国人から文化や遊び等を紹介してもらう国際交流活動を行っている。昨年までは、外国の文化紹介を聞いたり、遊びなどを体験する受け身的な活動であった。今年度は、より英語に対する目的意識や意欲を高めるため、児童側からも、お礼に国際交流活動に参加されている留学生や外国人に、日本の遊びを簡単な英語を使って紹介することを課題としたプロジェクト型英語活動の単元を設定することにした。

しかし、通常の英語活動では、決められた指導案にそってプログラム型の授業を行っているため、自分たちの表現したいことを英語で表現することや、今まで学習した表現等をまとめて活用して、コミュニケーションしようとする場面が少ない。このプロジェクト型の授業

を通じて、今まで習ってきた英語表現を取り入れ、さらに自分たちが伝えたいことを英語で表現し、相手に理解してもらうことで、英語でコミュニケーションすることの楽しさや達成感を味わわせたいと考える。

**(4) 指導計画 (全6時間)**

|     | 学習活動   | 指導上の留意点及び準備物等  |
|-----|--|--|
| 第1時 | <p>○留学生に紹介する日本の遊びについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の遊びについて話し合う。</li> <li>・それぞれの遊びの英語名を知る。</li> <li>・グループで紹介する遊びを選ぶ。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに英語活動の中でしてきたゲーム（福笑い、ジャンケンなど）を思い出し、日本の遊びについて話し合う。</li> <li>・それぞれの国や地域によって似たり、異なったりしている遊びがあることにも注目させる。</li> <li>・留学生たちに対して、日本の遊びを紹介することを知らせ、意識させる。</li> <li>・自分たちが伝えたい遊びや外国人には珍しいと思われる遊びを選ぶよう助言する。</li> </ul>   |
| 第2時 | <p>○紹介したい遊びを英語でどのように表現するか知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが紹介しようとしている遊びについて調べ、ワークシートに書く。</li> <li>・調べたことから、伝えたいことを選び、日本語のシナリオや動作を考える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介したい遊びについて詳しく調べ、日本語で紹介文を考える。</li> <li>・基本的に児童たちが伝えたい内容を英語表現にするが、自分たちで考えるのが難しい場合は、基本の英語表現を示す。<br/>〈和英辞書〉</li> </ul>  |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介に必要な基本表現を知り、ALTや担任に相談しながら、必要な英語表現を考える。</li> <li>・紹介するための英語表現を練習する。</li> </ul>                             | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>基本表現</b></p> <p><b>We will introduce ～.</b></p> <p><b>This is ～.</b></p> <p><b>We use ～.</b></p> <p><b>We will show you how to ～.</b></p> <p><b>Let's ～ together.</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本表現以外にも紹介に必要な英語を取り入れながら、シナリオや動作を考える。<br/>〈紹介に必要な遊び道具〉<br/>福笑い（シート、パーツ）・けん玉・こま・百人一首・折り紙</li> </ul> |



|                     |   |  |
|---------------------|---|--|
|                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>考えた英語の紹介文をジェスチャーを交えながら練習する。</li> <li>A L T のビデオを見ながら、発音練習をする。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>英語の紹介文をグループごとにA L T に読んでもらい、録画しておく。コンピュータに予め取り込んでおき、グループごとにA L T の発音を聞きながら、練習をする。</li> </ul> <p>〈A L T の発音をデジタルカメラの動画で録画して、コンピュータに取り込んだもの〉</p>                                  |
| <p>第5時<br/>(本時)</p> | <p>○日本の遊びを紹介しよう①<br/>(リハーサル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A L T やみんなの前でグループごとに発表をする。</li> <li>発表についてA L T に助言をしてもらう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>A L T を相手にグループで考え、練習してきたことを全員の前で発表し、本番に向けてリハーサルをさせる。</li> <li>全員で、各グループが分かりやすく伝えることができたかどうかを考える。</li> </ul> <p>〈ふりかえりシート〉<br/>〈紹介に必要な遊び道具〉<br/>福笑い(シート、パーツ)・けん玉・こま・百人一首・折り紙</p> |
| <p>第6時</p>          | <p>○日本の遊びを紹介しよう②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれて、留学生に日本の遊びを紹介し、一緒に遊ぶ。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ゆっくりと大きな声で、相手の目を見て話すことを意識させる。</li> </ul> <p>〈紹介に必要な遊び道具〉<br/>福笑い(シート、パーツ)・けん玉・こま・百人一首・折り紙</p>   |



(5) 本時案

ア 本時のテーマ(Theme)

日本の遊びをグループで協力してA L T や学級のみんなに紹介しよう。

イ 本時のねらい(Aims)



自分たちが考えた日本の遊びの紹介を英語を使ってALTや学級の人みんなに積極的にわかりやすく伝えようとする。それぞれの発表を見て、お互いにコメントし合う。

ウ 言語材料(Language materials)

| Topic                 | Vocabulary  | Target Dialogue  |
|-----------------------|---|--|
| Greetings             | fine, good, OK, happy, sad, hungry, sleepy, hot, cold   | Hello. How are you?<br>I'm ~ .   |
| New words and phrases | fukuwarai, top(kom), origami, kendama, a collection of one hundred poems (hyakunin isshu - bouzumehuri) | We will introduce ~.<br>This is ~.<br>We use ~.<br>We will show you how to ~.<br>Let's ~ together. |
| 話題                    | 言語材料  | 目標会話表現   |
| あいさつ                  | 元気、よい、大丈夫、うれしい、悲しい、おなかがすいている、眠い、暑い、寒い   | こんにちは。元気ですか。<br>私は～です。   |
| 新出語句                  | 福笑い、コマ、折り紙、けん玉、百人一首（ぼうずめくり）   | 私たちは～を紹介します。<br>これは～です。<br>私たちは～を使います。<br>私たちは～の仕方を見せます。<br>～をいっしょにしましょう。                          |

エ 準備物(Necessities for activity)

あそびの道具（福笑い・けん玉・こま・百人一首・折り紙）、ふりかえりシート

オ 展開(Procedure)

| 展開<br>(Procedure) | 児童の活動<br>(Students'<br>activity) | 担任(HRT)<br>の活動(Activity)及び留意点  | ALT(A L T)  | 備考<br>(Notes)     |
|-------------------|----------------------------------|--------------------------------|---|-------------------|
| 1 あいさつ            | ・教師とあいさつする。                      | ・元気よくあいさつができるような雰囲気作りをする。      | ・ Greet the students.   |                   |
| 2 めあての確認          | ・めあてを確認する。                       | ・めあての確認をする。遊びの紹介をALTにすることを伝える。 | ・ HRT makes sure the today's aims to the students.                |                   |
| 3 日本の遊びを紹介        | ・グループの計画に沿って紹介を進める。              | ・積極的に発表するよう励ます。ジェスチ            | ・ Listen to each group's performances. Enjoy playing the Japanese | コマ<br>百人一首<br>福笑い |

|             |                           |                                  |   |                      |
|-------------|---------------------------|----------------------------------|---|----------------------|
|             | ・道具の名前、遊び方を紹介する。          | ヤーも使ってわかりやすく紹介するよう助言する。          | game together.<br>・ Give each group questions and advice.   | (2セット)<br>けん玉<br>折り紙 |
| 4 感想        | ・各グループのよいところを振り返りシートに書く。  | ・各グループの発表のよい点を見つけて評価させる。         |   | 振り返りシート              |
| 5 振り返りとあいさつ | ・活動を振り返り、ALTと元気よくあいさつをする。 | ・よかった点をほめ、担任は児童と一緒に、ALTにあいさつをする。 | ・ Give the students your advice and opinion about the students' performances.<br>・ Send the students off with a good-bye. |                      |

## (6) 成果と課題

本学級の児童は4年生から年10時間の英語活動を受けてきたので、英語に触れること、ALTと話すことには慣れている。しかし、「あいさつ→新しい表現の導入→ゲームなどの活動」と決められたプログラム型の授業であるため、児童は受け身で授業に取り組むことが多かった。

今回、プロジェクト型の授業に取り組むにあたり、簡単な英語を使って「留学生に日本の遊びを紹介しよう」と目標を設定したことで、児童の方からも「日本の遊びが楽しいと分かってほしい。」「英語で話してみたい。」という意見もあり、自分たちで紹介文を考えようという前向きな姿勢が見られた。

最初、「何を紹介するか」を学級で考えた際には、遊び(将棋・カルタ・あやとりなど)、スポーツ(柔道・空手など)、文化(茶道・漫才など)とたくさんの意見が出された。「留学生や外国人とも一緒にできる」ということから、「福笑い・折り紙・けん玉・コマ・百人一首」を紹介することに決まった。紹介する遊びを班ごとに選んで、「どのように表現すればいいか」、「どんなジェスチャーをすればいいか」と話しあいながらグループごとに紹介文を考えていった。児童達は自分の言いたいことを表現するのに、「相手にわかりやすく伝える」ということを第一にして、まずは簡単な日本語での紹介文を考えた。

また、その日本語を英語に訳す際、和英辞書やインターネットでのオンライン辞書を使用するなど、普段の英語活動では行わない活動にも積極的に取り組んだ。最終段階では、意味の伝達ということを重視し、児童の英訳を、担任とALTとでチェックした。このことで、多くの児童が、自分の力で日本語を英語に訳すことに興味をもち、「もっと調べたい、知りたい」という意欲が高まった。

### 児童の感想より

- \* 「福笑い」という単語を英語で何というのか知りたい。
- \* 知らない英語をもっと調べたい。
- \* 初めて長い英文を学べたのでとても楽しかった。

- \*遊びを紹介する英文が少し分かった。他の英語での紹介の仕方も知りたい。
- \*（オンライン辞書で）出てきた英語が読めなかったので、どのように読むのか知りたい。
- \*外国人に分かってもらえるように、簡単な言葉を使わないといけないことが分かった。

しかし、紹介文を熱心に考えるあまり、日本語が難しくなってしまう、英語に訳すには複雑すぎるということや、今まで習ってきた表現以上の英語を使ったため「難しくて分からない。」「自分や班のメンバーが言っている英語がわからない。」「同じことを言うのに日本語は短いけど、英語は長いので大変である。」と振り返りシートに書いていた児童もいた。

日本語が難しくなってしまう点については、相手にわかりやすく伝える英語にするためには、なるべく簡単で、短い日本語で表現するようアドバイスをした。他の班やメンバーが言っている英語がわからないという点については、まず日本語でジェスチャーを入れながら、遊びを紹介する練習を取り入れた。その練習を取り入れることで、自分たちが説明している内容を理解でき、「どの」セリフの時に、「誰」が「どのようなジェスチャー」をするか、と説明全体を見通すことができたため、理解がより深まったように感じる。

「日本の遊び」という身近なテーマを選んだこと、グループで協力して表現方法を考えたことで、参加しようという意欲をもって取り組むことができた。

#### 児童の感想より（留学生との交流後）

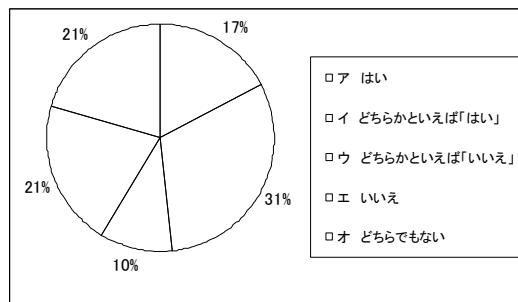
- \*英語をしゃべれた。ちゃんと通じた。
- \*英語で会話したい。
- \*もっと他の国や英語のことを知りたくなった。
- \*（英語活動の取り組みは）難しかったけど、英語で話せたのが楽しかった。
- \*発音練習が楽しかった。
- \*「一緒に〇〇をしましょう」という英語が分かった。
- \*英語を勉強してちょっとだけ分かってきたのが楽しい。

児童は、この活動を通して、コミュニケーションするときは、アイコンタクトやはっきり大きな声で言うことの必要性を感じることができた。また、自分たちで考えた紹介文の内容を何度も考え直したことから、日本語を英語にして外国人にどのようにすれば分かってもらえるか、と聞き手のことを考える大切さも学ぶことができた。

また、何度も発表練習を繰り返していく中で、児童は英語を使うことに意欲的になっていった。例えば、他のグループの発表を聞き、「自分たちもあの英語表現を使いたいから教えて。」という児童、学級の宿題として取り組んでいる自主学习ノートで英語を書いてくる児童、家庭で和英辞書を使っていろんな言葉を調べるようになった児童の姿が見られた。下記のアンケートの結果を見ても、プロジェクト型の英語活動を通して、英語に親しみを感じ、意欲的に取り組むことができていたように思う。

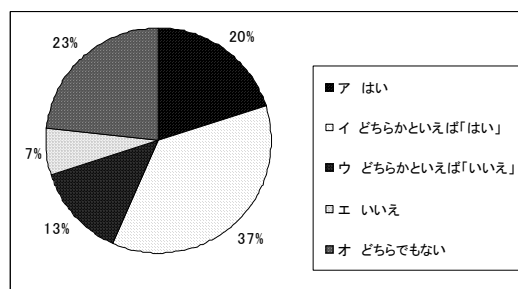
**プロジェクト型取組前**

- 英語活動の時間は好きですか。
- |                 |   |
|-----------------|---|
| ア はい            | 5 |
| イ どちらかといえば「はい」  | 9 |
| ウ どちらかといえば「いいえ」 | 3 |
| エ いいえ           | 6 |
| オ どちらでもない       | 6 |

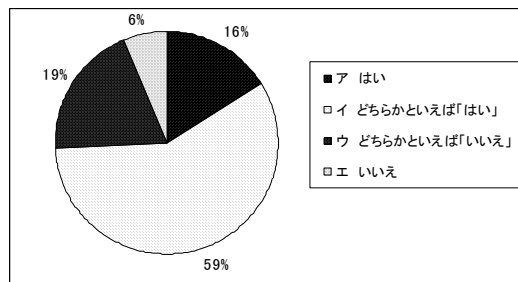


**プロジェクト型英語活動 取組後**

- 日本の遊びを紹介する内容を考えることや英文に訳すことに興味をもちましたか。
- |                 |    |
|-----------------|----|
| ア はい            | 6  |
| イ どちらかといえば「はい」  | 11 |
| ウ どちらかといえば「いいえ」 | 4  |
| エ いいえ           | 2  |
| オ どちらでもない       | 7  |

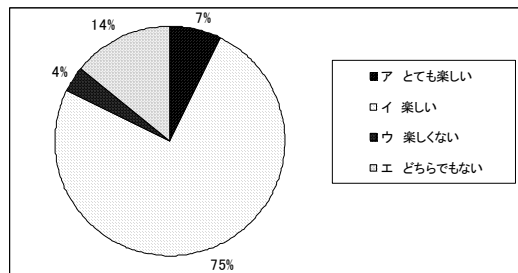


- 英語で日本の遊びを紹介する英語活動は楽しかったですか。
- |                 |    |
|-----------------|----|
| ア はい            | 5  |
| イ どちらかといえば「はい」  | 18 |
| ウ どちらかといえば「いいえ」 | 6  |
| エ いいえ           | 2  |



活動内容が違うので、統一した質問にはなっていないため、単純に比較はできないが、どの項目も前向きな姿勢、意欲的な態度、達成感をもつ児童が多くなったと思われる結果になっていると考える。次のグラフは、毎年度末にとっている通常の英語活動も含めたアンケート結果である。学年が上がるにつれ、「とても楽しい。」「楽しい。」の割合は減っていく傾向があったが、今年度はその2つの項目あわせて82%という高い割合になり、前向きな意見も多くでた。

- 英語活動は楽しいですか。
- |           |    |
|-----------|----|
| ア とても楽しい  | 2  |
| イ 楽しい     | 21 |
| ウ 楽しくない   | 1  |
| エ どちらでもない | 4  |



英語活動において、低学年の児童は、新しい言葉・表現を教えてもらうだけで楽しいと感じ、積極的に取り組めるが、高学年になると人前で話すこと、間違ふことに気恥ずかしさを

感じるため、意欲的に活動できないこともある。しかし、今回のプロジェクト型授業のように、最終目標を設定し、それに向けて必要な英語表現を学び、様々な活動を取り入れることは、高学年の児童には、難しいと感じることもあるようだが、「長い英文や知らない単語をもっと知りたい。」という意欲をもち、「難しい英語を言うことができた。」「留学生に英語で話せた。」という達成感をもつよいきっかけになったように感じる。

教員側の課題としては、プロジェクト型の授業では、通常のプログラム型の授業とは違い、児童の学習レベルに合わせて必要な英語表現を選んだり、限られた時間の中で英語の発音練習や発表練習をさせることが難しいことなどが挙げられる。

## 英語活動指導案

2008年12月4日 木曜日

第2校時

6年2組34名(男15名 女19名)

使用教室 パソコン教室

指導者 若狭 保

上西 孝生

(1) **単元名** 広陵町案内ビデオをつくろう

(2) **単元のねらい** 簡単な英語を用いた、広陵町案内ビデオを作成することを通して、生活の中での英語の必要性を感じ、英語を使って表現することの楽しさを味わう。

(3) **単元について**

奈良県は海外からの観光客が多く、奈良市内を歩いているとよく外国人を見かける。しかし、広陵町で外国人と出会う機会は少なく、広陵町のホームページにも「Sorry! Japanese Only」という表記がある。児童にこのホームページを見せてみると、「外国人が不便だな。」「英語で書かれたホームページがあるといいな。」「外国人にも見てほしい。」というような意見がたくさん出た。そこで、児童と相談して、外国人に役立つ案内ビデオを作成しようということになった。外国人と接する経験の少ない児童にとって、相手の立場に立って伝えたいことを考え、それを英語で表現する活動は、基本的な表現の習得にとどまらず、英語を積極的に使おうとする態度、異文化との関わりという点においても重要な学習の場になるのではないかと考えている。

本学級の児童は明るく元気に活動し、学習においても落ち着いて取り組む児童が多い。しかし、一方で、学習中は、周りを意識して自分の考えを積極的に発表することができない児童もいる。しかし、英語活動においては、他の教科より声が出ることも多く、児童の中の英語活動に対する興味をうかがうことができる。ただ、本校では、年間数時間の英語活動しか行っておらず、また、ALTも在籍していないという現状があり、児童にとって英語が身近なものになっているとはいえない。そのため、児童がもっている英語への興味・関心を生かすことのできる取組が必要であり、今回のビデオづくりのように、教師から与えられた課題に取り組むだけでなく、自分たちで主体的に英語と向き合う活動が大切であると考えられる。

本学級では英語との関わりが少ない児童が多いため、本単元に入る前に、ゲーム等を用いて様々な英語表現に慣れさせておくことが必要である。そして、活動への児童の意欲をより高めるために、児童の自由な発想をできるだけ尊重して紹介文を考えさせることが大切であると考えられる。また、視覚に訴えるビデオの特性を生かし、相手により分かりやすく伝えるための様々な方法を検討させることによって、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養いたい。町内の中学校に在籍しているALTと連絡をとり、ビデオレーターを通して発音の学習を行ったり、完成した案内ビデオを見ていただいたりして児童の成就感につなげて

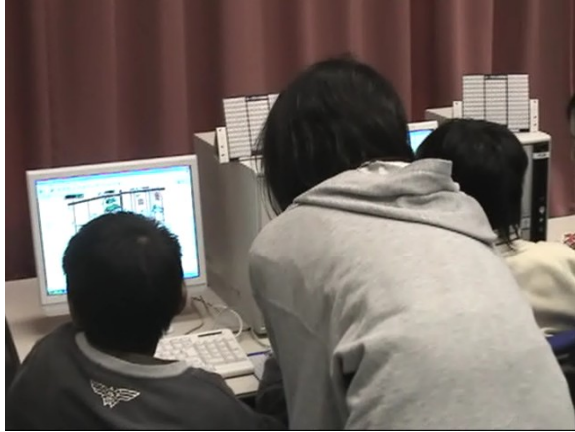
いきたい。

(4) 指導計画 (全8時間)

|            | 学習活動   | 指導上の留意点および準備物等  |
|------------|--|---|
| <p>第1時</p> | <p>○ どんな案内ビデオがあると便利かを考える。</p> <p>・今、自分たちが学習している英語を使って、何か実用的なことができないかを考える。</p> <div data-bbox="271 772 837 1512" data-label="Image"> </div> <p>ワークシート①</p> <p>○ できたビデオの活用のかたまりを考える。</p> | <p>指導上の留意点および準備物等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広陵町HPに「Sorry! Japanese Only」の表示があることを確認する。</li> <li>・ 広陵町HPの画像</li> <li>・ 広陵町に来られた外国人の視点に立って、内容を考えるよう助言する。</li> <li>・ これまでの学年で学んだ広陵町のことを思い出せるような言葉がけをする。</li> </ul> <div data-bbox="877 795 1356 1456" data-label="Image"> </div> <p>ワークシート②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校区の中学校にALTがいることを知らせる。</li> </ul> |
| <p>第2時</p> | <p>○ 自分たちのグループのテーマを決定し、内容を考える。</p> <p>・ 決定したテーマに沿った内容について調べ、ワークシートにまとめる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容が決まったら、他グループと情報の交換をするよう助言する。</li> <li>・ 資料集めの指示をする。</li> </ul>   |



第2時



・ワークシート③

広陵町案内ビデオを作るう ②

(グループ) ザルゴ 名前(国名) 理帆子

○案内ビデオのテーマを決定しよう。

交通

○案内ビデオで紹介したいこと。

バス

○案内ビデオで紹介する内容について調べよう。

駅の近く 病院 役場の近くのバス停  
五辻堂駅 箸尾駅 本陣野役場  
花園野  
料金

第3時



- 外国人にとって役に立つ、わかりやすい紹介文を考える。
- ・ 今まで学習した英語表現を活用できる場合はできるだけ活用する。
- ・ 文章を5つ以内にする。

- ・ 児童の自由な発想を大切にし、紹介したい内容を最初は全て出すよう助言する。
- ・ 様々な文章が出てくることが予想されるので、精選するようにする。

・ワークシート④

広陵町案内ビデオを作るう ④

(ジャッキー・チェン) グループ 名前(池郡 舞)

○完成した台本

①こんにちは。私たちは広陵町の図書館を紹介します。

②本をかりるにはこのカードが必要です。そのために身分証明書があります。

③開館時間は9時から17時までです。

④月曜日と第二金曜日は休館日ですので注意してください。

⑤図書館の場所はここです。電話番号は0745-55-4946です。

○それを英語で表すと・・・

① Hello. We introduce a library in Kouryou Town.

② You need this card to borrow a book. An identification card is necessary to make a card.

③ The library is open from 9 AM to 5 PM.

④ The library is closed every Monday and the 2nd Friday of each month. Please be careful.


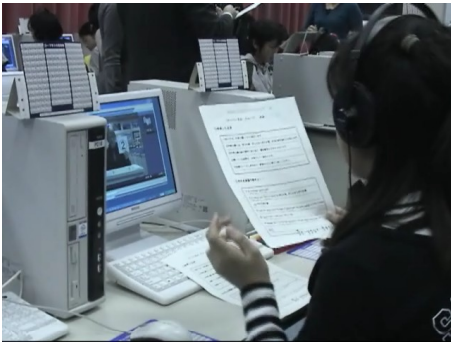

⑤ The library is here in this picture. The phone number is 0745-55-4946.

*Do your best!*

第

- 英訳した紹介文を確認し、写すビデオの内容を考えて、資料を作成する。
- ・ 施設の映像、地図、自分たちの写し方等を検

- ・ 英訳した紹介文を児童に解説する。
- ・ 文章だけの表現にこだわらず、絵や具体物を使用する等、ビデオを使うことで効果的に伝えることができることを

|                   |   |   |
|-------------------|---|---|
| 4<br>・<br>5<br>時  | <p>討する。</p>   | <p>示唆する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート⑤</li> <li>・紹介文が完成したら、他グループと情報の交換をするよう助言する。</li> </ul>   |
| 第6時<br>(本時)       | <p>○ 考えた紹介文の発音を学び、撮影の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区の中学校のALTからビデオレターを通して学ぶ。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータに取り込んだビデオレター</li> <li>・ワークシート④、⑤</li> </ul> <div data-bbox="877 689 1353 1339" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">(ジャッキー・チェン) グループ 名前(池部 舞)</p> <p>○ビデオでわかりやすく伝えるための工夫を考えよう。</p> <p>① Hello. We introduce a library in Kouyuu Town.<br/>(工夫) 図書館、正面玄関の写真を示す。</p> <p>② You need this card to borrow a book. An identification card is necessary to make a card.<br/>(工夫) カードを示す。</p> <p>③ The library is open from 9 AM to 5 PM.<br/>(工夫) 開館時間を書いたフラッグを示す。</p> <p>④ The library is closed every Monday and the 2nd Friday of each month. Please be careful.<br/>(工夫) 休館日を書いたフラッグを示す。</p> <p>⑤ The library is here in this picture. The phone number is 0745-55-4946.<br/>(工夫) 広狭町の地図で図書館の場所を示し、電話番号をフラッグに書かす。</p> <p style="text-align: right;">Do Your Best!</p> </div> <p style="text-align: center;">ワークシート⑤</p> |
| 第7<br>・<br>8<br>時 | <p>○ ビデオを撮影し、完成したビデオをグループごとに見合って感想を述べ合う。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくりと大きな声で話すよう助言する。</li> </ul>  |

事後指導

完成したビデオを校区の中学校のALTに見ていただいて、その感想をビデオレターにしてもらい、視聴する。児童の成就感につながるような指導を心がける。

(5) 本時案

ア 本時のテーマ (Theme)

グループで協力して、外国の方に役立つ案内ビデオをつくろう。

イ 本時のねらい (Aims)

積極的に、ビデオレターを通して発音の練習をしたり、グループで協力して撮影の練習をしたりする。

ウ 言語材料 (Language materials)

| Topic                 | Vocabulary   | Target Dialogue                |
|-----------------------|--|--------------------------------|
| Greetings             | fine, good, OK, happy, sad, hungry, sleepy, hot, cold  | Hello.How are you?<br>I'm ~.   |
| New words and phrases | introduce, fire station, telephone number, eggplant, socks, picture, family, library, bus stop, station, public office, hospital, temple | We introduce ~.<br>There is ~. |
| 話題                    | 言語材料   | 目標会話表現                         |
| あいさつ                  | 元気、よい、大丈夫、うれしい、悲しい<br>空腹だ、眠い、暑い、寒い   | こんにちは。元気ですか？<br>私は～です。         |
| 新出語句                  | 紹介する、消防署、電話番号、なすび、靴下、絵、家族、図書館、バス停、駅、役場、病院、寺  | 私たちは～を紹介します。<br>～があります。        |

エ 準備物 (Necessities for activity)

コンピュータに取り込んだビデオレター 各グループで用意した撮影に必要なもの  
ワークシート④・⑤ 振り返りカード

オ 展開 (Procedure)

| 展開<br>(Procedure) | 児童の活動<br>(Students' activity) | 担任の活動及び留意点<br>(HRT Activity)   | 備考<br>(Notes)        |
|-------------------|-------------------------------|--|----------------------|
| 1 あいさつ            | ・教師とあいさつをする。                  | ・明るい雰囲気です活動に入ることができるようなあいさつを心がける。  |                      |
| 2 今日の活動、めあての確認    | ・今日の活動内容、めあてを確認する。            | ・今日の活動 (ビデオレターを使って発音の練習をすること、考えた内容に沿って撮影の練習をすること)、めあて (積極的にグループで協力して活動すること) を確認する。 | コンピュータにビデオレターを取り込んでお |

|             |  |   |         |
|-------------|--|---|---------|
|             |  |   | く。      |
| 3 発音の練習     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオレターを見ながら発音の練習をする。</li> <li>・個人練習、ペア練習、グループ練習を順に行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発音練習を行えるように、机間指導して声をかける。声が出にくい児童には、一緒に発音したりして、声の出しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>・それぞれの段階の練習ができているか確認する。</li> </ul> | ワークシート④ |
| 4 撮影の練習     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに集まって、撮影のリハーサルを行う。</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの練習を見て回り、声、資料の見せ方等の撮影の工夫に関する指導・助言を行う。</li> </ul>   | ワークシート⑤ |
| 5 振り返りとあいさつ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の活動を振り返り、あいさつを行う。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の活動のよかった点などをまとめ、次時への意欲につなげる。</li> </ul>   |         |

## (6) 成果と課題

高学年の児童は、低・中学年の児童に比べて、歌やゲームなどのプログラム型の英語活動に積極的になれない事が多い。気恥ずかしさや周りの目を意識するようになってくる事などが理由として考えられるが、その他にも、より知的好奇心を満たすものを求めたり、自主的に活動を進めたいという希望をもっていたりする。そこで今回は、そのような実態をふまえ、高学年の児童が英語活動により楽しく、自主的に取り組めるようにプロジェクト型の活動を設定した。その際、特に留意したことは、

- ①英語を使うことの必然性があること
- ②国際理解教育の視点から、自分たちを紹介する内容であること
- ③児童の伝えたい内容を重視すること
- ④児童が自主的に取り組める内容であること
- ⑤英語に親しみを感じ、楽しく活動できる内容であること

である。また、ALTの在籍していない本校では実際にネイティブの発音に触れることができないため、ビデオレターとコンピュータを活用して、発音を練習する活動を考えた。

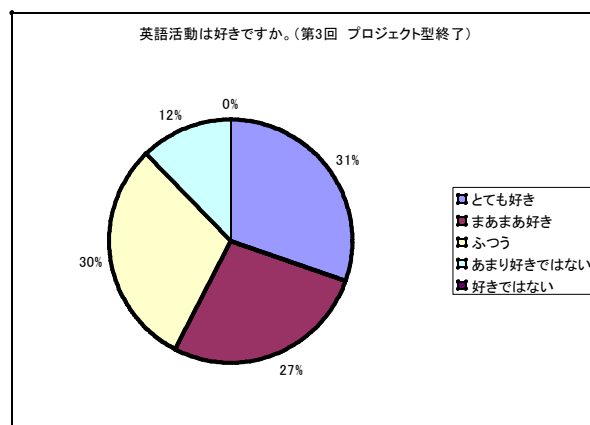
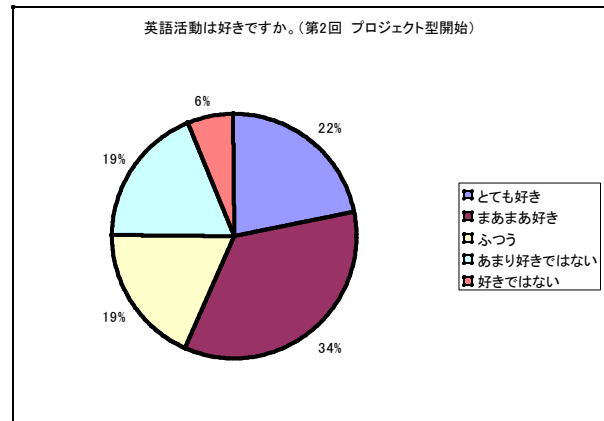
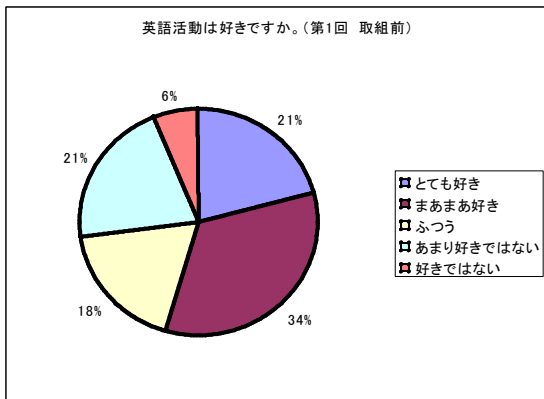
今回の取組は、広陵町のホームページに英語表記がないことから、「広陵町に住んでいる外国人は不便な思いをしているのではないか。」ということを出発点としている。その点では、①英語を使うことの必然性があること、②自分たちを紹介する内容であることを児童は感じながら活動を進めていくことができた。段階的なワークシートを用いたことで、その事をより強く認識できたように思う。また、紹介する内容をグループごとに考えて文章を作成したので、③児童の伝えたい内容を重視すること、④児童が自主的に取り組める内容であること、も押さえることができた。下記のアンケートの結果を見ると、プロジェクト型の活動を通して、「⑤英語に親しみを感じ、楽しく活動」することもできていたようである。

○英語活動は好きですか。

|             |       |        |     |           |        |
|-------------|-------|--------|-----|-----------|--------|
| 第1回<br>取組前  | とても好き | まあまあ好き | ふつう | あまり好きではない | 好きではない |
| 英語活動は好きですか。 | 7     | 11     | 6   | 7         | 2      |

|                  |       |        |     |           |        |
|------------------|-------|--------|-----|-----------|--------|
| 第2回<br>プロジェクト型開始 | とても好き | まあまあ好き | ふつう | あまり好きではない | 好きではない |
| 英語活動は好きですか。      | 7     | 11     | 6   | 6         | 2      |

|                  |       |        |     |           |        |
|------------------|-------|--------|-----|-----------|--------|
| 第3回<br>プロジェクト型終了 | とても好き | まあまあ好き | ふつう | あまり好きではない | 好きではない |
| 英語活動は好きですか。      | 10    | 9      | 10  | 4         | 0      |



また、その理由を聞いてみると、

○それはなぜですか。(複数可)

| 第1回<br>取組前             | 歌やゲーム<br>があるから | 体を<br>動かすから | 英語が<br>好きだから | 英語は<br>難しいから | その他 |
|------------------------|----------------|-------------|--------------|--------------|-----|
| それはなぜ<br>ですか。(複<br>数可) | 16             | 1           | 6            | 10           | 4   |

その他の意見…読めないから、何を言っているのか分からないから

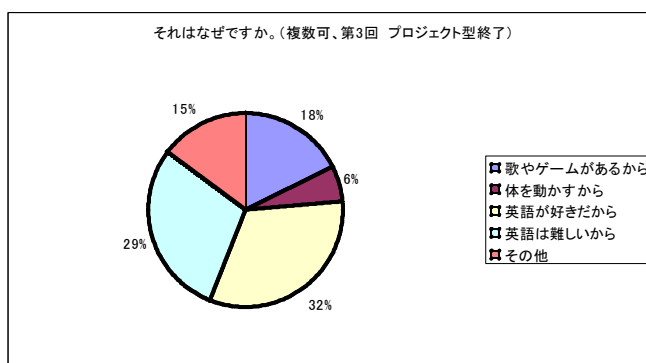
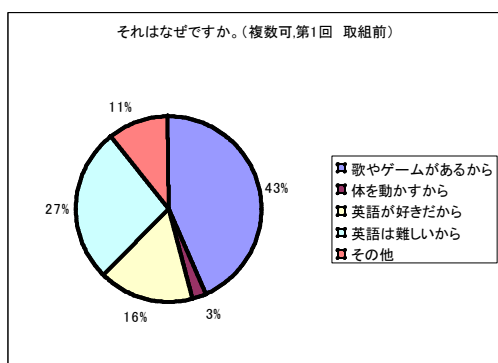
単語や文を覚えられないから、習っていておもしろいが難しくなっている

| 第3回<br>プロジェクト終<br>了    | 歌やゲーム<br>があるから | 体を<br>動かすから | 英語が<br>好きだから | 英語は<br>難しいから | その他 |
|------------------------|----------------|-------------|--------------|--------------|-----|
| それはなぜ<br>ですか。(複<br>数可) | 6              | 2           | 11           | 10           | 5   |

その他の意見…今日の学習はみんなで楽しく勉強できた、日本語でできないことができる。

話せるようになりたくなった、難しく感じるときもある。

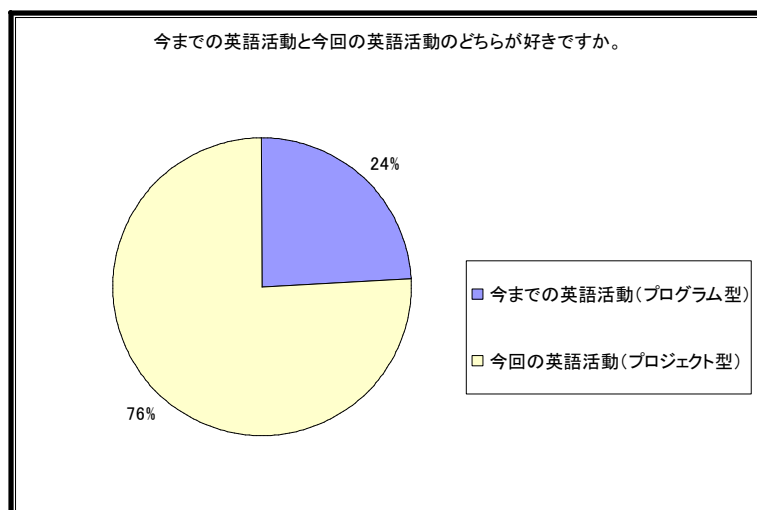
とあるように、歌やゲームによる楽しみだけでなく、プロジェクト型の学習を通して、英語そのものを好きに感じたり、親しみをもったりもしているようである。



さらに、プログラム型の英語活動とプロジェクト型の英語活動について聞いてみると、

○今までの英語活動と今回の英語活動のどちらが好きですか。

|                             | 今までの英語活動(プログラム型) | 今回の英語活動(プロジェクト型) |
|-----------------------------|------------------|------------------|
| 今までの英語活動と今回の英語活動のどちらが好きですか。 | 8                | 25               |



このような結果がでた。プロジェクト型を選んだ児童の理由は、下記のとおりである。

- ・自分で考えたり、調べたりすることができる。(11人)
- ・みんなで協力して楽しかった。(4人)
- ・現実的だった、役に立った。(4人)
- ・実際に英語を話して覚えられた。(4人)
- ・今までは決まっている言葉だけを言っていたけど、今回は自分たちの言いたいことが言えて良かった。(2人)
- ・自分たちで進めることで自信がついた。(1人)
- ・外国の人に伝えることがおもしろい。(1人)
- ・勉強しているなあという感じがする。(1人)
- ・いろいろな言葉を知ることができた。(1人)

この結果からも、児童は「自主的に進める」「英語の必然性がある、実用的である」「自分たちの思いが伝えられる」「みんなで協力し合える」英語活動を求めていると考える。小学校での英語活動の大きな目標の一つが、平成17年に奈良県教育委員会から出された『楽しい英語活動のために』（奈良県小学校「英語教育」指導方針）にあるように「英語活動を楽しむことを通して、英語に慣れ親しませ」ることであるならば、今回のようなプロジェクト型の活動は、高学年の児童にとって、とても効果的な活動であったと考えられる。また、ビデオレターを通して地域の中学校のALTと交流をもつことは、ALTのいない本校では、児童が本物の英語を身近に感じ、積極的に活動に取り組める一つのきっかけとなった。

今回の取組で、高学年におけるプロジェクト型の英語活動の有効性を感じることができたが、課題も明らかになった。

まず、プログラム型の英語活動の着実な積み重ねが、プロジェクト型の英語活動につながるということである。今までのプログラム型の英語活動で蓄積してきたことを用いて、設定した課題を解決していく活動がプロジェクト型の英語活動である。そのためには、系統だったプログラム型の英語活動の積み重ねが不可欠になる。今回の取組では、その積み重ねが不十分であり、突然の高度な英語表現にとまどう児童も見られた。

次に、今回のような「自分たちのことを紹介する」活動では、伝える内容や情報の精選、明確化が大切であると考えられる。「自分たちが伝えたい内容はどのようなものなのか」「見てい



る人に本当に必要な情報とはどのようなものなのか」を児童に考えさせることが必要になってくる。児童はたくさんの思いをもっているが、小学校高学年の英語力では、複雑な英文、多くの英文で自分たちの思いを伝えることは難しい。だからこそ、必要な内容を慎重に選ぶだけでなく、できるだけ簡単な言葉で表現する力も求められる。その点では、国語科教育との関連も重要になってくる。今回の取組では、そのような視点が曖昧で、内容を明確にし、表現を簡潔にしきれなかった紹介文も見られたが、より児童が楽しく、達成感をもって活動するためには、上記のような点に留意した指導が大切である。また、撮影に際して、ビデオの特性を活かして、フリップや地図、説明に必要な具体物等を活用することを児童に考えさせたことは、効果的に表現することを児童に感じさせることにつながった。

また、地域の中学校のALTにお願いして、児童の考えた紹介文を英訳したものを読んでもらって、ビデオに撮影した。児童はそのビデオを繰り返し見て発音を練習したが、少し遠目で撮影したために、ALTの口の動きが確認しにくいビデオになった。口の動きがよく見えるような撮影の仕方が必要である。また、児童があまり英語に慣れ親しんでいない場合は、字幕を画面に映したり、個々の表現ごとの発音を撮影したりといった工夫も必要になってくる。さらに、撮影した紹介ビデオをALTに見てもらってアドバイスを聞き、手直し等を行うことができるように思う。

取組後のアンケートで、プロジェクト型の英語活動が好きと答えた児童の理由の中に「今までは決まっている言葉だけを言っていたけど、今回は自分たちの言いたいことが言えて良かった。」という意見があった。高学年の児童は、自分の思いを英語で伝えたいという気持ちを強くもっていると感じた。また、自分たちで考え、進めていくことにもとても意欲的であった。高学年の児童に、よりよい英語との出会いを体験させるには、そのような児童の思いを受け止めて進めてくることができるプロジェクト型の英語活動が、とても有効である。プロジェクト型の英語活動は、その内容から、多くの時間を費やすことも多いが、英語とのよい出会いをもって中学校へ児童を送り出すために、今後ますます重要性の高まる取組であると考えられる。

## 9 おわりに

平成20年1月の中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の中で、小学校における外国語活動においては「中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地をつくることが重要」であり、そのために「中学校段階の文法等の英語教育を前倒しするのではなく、国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることを目標として、外国語活動を行うことが適当」と書かれている。上記の2つの事例は、どちらも「国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深める」ことを柱としたプロジェクト型の英語活動の取組を進めたものであるが、その結果として、児童が、熱心に発音練習をしたり、自分たちで辞書を使って調べ、なんとか自分の思いを伝えようとするといった「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を見せていることを強く感じた。また、学んだ英語表現を使ってコミュニケーションを取ることができたという達成感をもつ児童も増えた。それは授業における児童の様子やアンケートの結果にも現れている。この点からも、プロジェクト型の英語活動が小学校英語活動において有効であると考えられる。

今後のプロジェクト型の英語活動を行う上での課題としては、より効果的に取り組めるよう

に、その土台となるプログラム型の英語活動をふまえた、系統だった学校全体としての指導計画の作成があげられる。プロジェクト型の英語活動は、その特性上、内容が多方面に広がりやすい。児童の主体性・自主性を最大限尊重するためにも、様々な場面に対応できるような指導計画の作成が必要である。学校として、そのような指導計画の作成を行うことができれば、昨年の研究の課題でもあった「指導計画を立てたり教材を作成したりすることに多くの時間を費やすこと」や「限られた時間の中でいかに多くの英語にふれさせ使用させることができるかを考えること」の解決にもつながっていくのではないかと考えられる。

今回、高学年におけるプロジェクト型英語活動に取り組み、高学年の児童の中に、「英語で何かを伝えてみたい。」、「これを外国の方に伝えたい。」、「英語で伝えることを自分たちで考えたい。」といった思いを強くもっている児童が多いことを改めて感じた。このような児童の思いを形にすることで、より「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」が培われていくと考える。そのためにも、プロジェクト型の英語活動のさらなる研究を進めていきたい。

#### 参考・引用文献

- (1) 文部科学省小学校学習指導要領(2008)
- (2) 文部科学省小学校学習指導要領解説外国語編(2008)
- (3) 菅正隆『実践国語研究288号』～『同292号』 明治図書
- (4) 直山木綿子『英語教育2008年4月号』～『同12月号』 大修館書店
- (5) 東野裕子、高島英幸(2007)『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』 高陵社書店
- (6) 三森ゆりか『英語教育2004年5月号』 大修館書店
- (7) 樋口忠彦他(1999)『小学校からの英語教育』 研究社出版